

平成30年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	中村健司
		全体計画						経費区分		-		内線	3612
事務事業名	4253 教育奨励事業												
所 属	300100 教育委員会事務局・学校教育課												
施 策	02010700 特色ある魅力的な学校づくりの推進												
予算 科目	会計	01 一般会計											
	科目	100103 教育費・教育総務費・教育奨励費											
	事業	010000 教育奨励事業											
事業目的						事業概要・効果							
地域に開かれた特色ある教育・学校づくりや、学校・家庭・地域が、それぞれ果たす役割を自覚し、ともに連携し、子どもたちの「生きる力」を育み、将来を見据えて、育て合い・生き合う教育を推進する。						各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校評議員制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。							

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校評議員制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行った。	各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校評議員制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。
平成29年度 実績	平成30年度 予定
各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校運営委員会制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。	各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校運営委員会制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。
平成31年度 予定	平成32年度 予定
各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校運営委員会制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。	各小・中・支援学校における特色ある教育・学校づくり推進事業及び学校運営委員会制度により、地域に開かれた学校づくり、心豊かでたくましく、国際的視野をもち、主体性ある人材育成が一層進むとともに、総合学習への積極的な取り組みを行う。

指標名	学校に行くのは楽しいと思う児童の割合				
算式					単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標		95	97	100
	実績	84.5	90.5		
指標選定の理由	特色ある教育・学校づくりの延長線上にあると考える				
最終年度目標の根拠	義務教育課程であり、全ての児童・生徒に共通の目標である				
指標名					
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成29年度 決 算	平成30年度 予 算
事業費		12,710	15,846
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	52	17
一般財源		12,658	15,829
人員数(人)	正規職員	0.4	0.5
	嘱託職員	0.2	0.3
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	2,859.6	3,574.5
	嘱託職員	553.2	829.8
	臨時職員	0.0	0.0
	計	3,412.8	4,404.3
市民一人当たりの経費		0.3	0.4
総額		16,122.8	20,250.3

(単位：千円)

平成29年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	33	学力テスト分析外
11節 需用費	19	消耗品 ほか
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	7,271	特色ある教育・学校づくり推進事業負担金外
その他	5,387	自然体験学習バス借上げ外

(単位：千円)

平成30年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	64	野外体験学習看護師謝礼
11節 需用費	140	消耗品 ほか
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	9,737	特色ある教育・学校づくり推進事業負担金 ほか
その他	5,905	自動車借上料、峰の原自然体験学習宿泊施設借上料 ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	各学校が工夫を凝らして特色ある学校づくりをするためには事業費が必要	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	学校の裁量で使える事業費があった方が各学校の特色が出せるため、学校の特性に合わせた事業が可能になりより高い効果が期待できる	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	各学校が共通して行う事業については、市が予算を確保して直接発注した方が効率的で経費も抑えられる	

振り返り（決算年度の取組み課題）

小学校峰の原高原自然体験学習では、須坂青年の家の閉鎖により29年度からペンション宿泊とした。初年度ということもあり準備、運用に予想以上の手間を要してしまった。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
29年度の改善に沿って継続していきたい。		移行後はPDCAサイクルを回して質の向上が図れている。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	